

## 宇田雄一「古典物理学」

上に'（プライム）を付けたり、これらと数字の添え字を併用したりもする。

$\hat{g}$   $\hat{g}'$   $\hat{z}$   $\hat{z}'$   $\hat{E}$   $\hat{\alpha}$   $\bar{\alpha}$   $\underline{\alpha}$   $\hat{T}$   $\hat{V}$   $\bar{V}$   $\hat{G}$   $\hat{F}$   $\hat{\Gamma}$   
 $P'_1$   $P'_2$   $P'_3$   $P'_4$  など。

書物によっては文字の右上に数字の添え字を付けることもあるが、べき指数と間違え易いので本書ではやめておく。 $A^3$ が一つの文字なのか $A \times A \times A$ なのか判断しにくい場合が出て来ないとも限らない。ただし、§4-2の  $T_4^1$   $T_4^2$   $T_4^4$  は例外だ。特に文字が足りない場合でなくとも、 $S'$ が $S$ を連想させることを利用したい、などの理由で $S'$ を利用する、というパターンもある。この手の工夫を上手に行なうことによって、文章や式が読み易いものになる。

本書では例えば、 $P_1$   $P_2$   $P_3$  などを予約語として用いるが、これらの添え字部分を空欄にして、 $P_i$ という文字式を作つておくと便利なことがある。その場合には、空欄*i*に1や2や3を代入すると完成する。 $P_i$ は、それ自体としては未完成だ。本書では、数字の添え字を伴う文字を常に、添え字も含めて全体として一つの文字として扱う。ラテン文字やギリシャ文字は、添え字として用いられるときには、常に空欄を表すものとする。ただし、§2-1-7の  $e^{R_4}$   $e^{R_5}$  と §3-1-6の  $e^{R_6}$   $e^{R_8}$  は例外だ。

空欄  $x, y$  に実数を代入することが前提となっている場合には、文字式  $x \times y$  を  $xy$  と略記することがある。この場合には、 $xy$  の  $x$  に3、 $y$  に4を代入して完成文は34、とやってはいけない。 $xy$  の  $x$  に3、 $y$  に4を代入すれば、完成文は  $3 \times 4$  となる。このように文字式には、代入前にのみ通用する略記法があるので注意が必要だ。